よい体育授業を実践している小学校教師の特徴

山本　志穂　（　愛媛大学　）

１．目的

本研究では,熟達者教師へのインタビュー調査を通じて，よい体育授業を実践している小学校教師のビジョンとそのビジョンの形成過程を明らかにすることを目的とした。

本研究における熟達者教師とは，体育授業と学級集団づくりを関係付けていることを前提とし，加えて継続的に体育授業を公開したり，その考えを学会や研究会等で発信したりして，社会からよい体育授業の実践者として高い評価を受けている教師とした。また，久保（2024）の研究を参考に，本研究では「ビジョン」について，ALACT モデルの限界を補完するものとして提唱された「玉ねぎモデル」（Kortharen＆Vasalons，2005）にある「Belief(信念)」や「Identity(自己)」，「Mission（使命)」に関する部分に関することとした。

２．研究方法

A･B･C 教師の執筆した文献から特徴を整理し，リサーチクエスチョンを踏まえたインタビューガイドを作成し，半構造化インタビューを行った。研究対象者は，職歴が 15 年以上のベテラン教師（木原，2004）を対象とした。研究対象者及び調査時期・方法等は以下の通りであった。(表 1)

表１　研究対象者及び調査の時期・方法

	職歴	インタビュー日程	方法
A 教師	24 年	2024 年 8 月 3 日	対面
B 教師	34 年	2024 年 9 月 5 日	オンライン
C 教師	16 年	2024 年 10 月 5 日	対面

分析は，発話内容を分析の視点（ビジョン，ビジョンの形成過程）に沿って解釈し，教師ごとに図示した。「内的妥当性」を高めるために，3 人それぞれともう一度インタビューを行い,「メンバーチェック」（メリアム，2004）を実施した。

３．結果と考察

１）A 教師の特徴と背景

文献調査やインタビュー調査では，常に「子ども」「達成感」といった言葉が頻出しており,『すべての子どもが達成感を味わえる授業』という体育授業に関するビジョンをもっていることが確認できた。また，集団を育てることが個の達成感につながると考えており，学級集団づくりにおける学級経営を重視していた。目の前の子どもに合った教育を常に考えており，その中で体育科の価値を生かした教育を核にして，子どもの人間形成・人づくりを図っていると考えられた。こういったビジョンは学び続けることで形成されていった。

２）B 教師の特徴と背景

『すべての子どもの生々しい感情のやり取りがみられる授業』という体育授業に関するビジョンをもち，体育授業と学級経営の良さが循環することで子どもがより成長していけると考えていた。自身の実践を省察することで形成されていった。

３）C 教師の特徴と背景

『子どもが授業を自分たちで創っている実感をもち，教師がいなくても成り立つ授業』という体育授業に関するビジョンをもち,「子どもファースト」の考えで教育を遂行していることが分かった。

４．結論

３人の熟達者教師は，体育科の価値を生かした教育を軸にしながら子どもの人間形成・人づくりを図っており，目の前の子どものこれからの姿を見据え，日々の実践を積み重ねていた。そういった熟達者教師のビジョンは,「意味ある他者」との出会いが転機となり形成されていった。また，熟達者教師は思いと行動が一致しており，その姿こそが「学び続ける教師」であると分かった。

５．主な参考文献

1)　久保研二，教師エージェンシーと保健体育教師の「ビジョン」，体育科教育，72（6），pp.22-25.